

# 厚岸町海事記念館



## 通信

2006.7.

No. 2

### 寄贈資料展を開催しました



【寄贈資料展展示風景】

海事記念館には、町民の方をはじめ多くの方々からさまざまな資料が持ち込まれます。また、「こんなものがあるんだけど、必要なら見にくるかい？」などのお電話もいただきます。みなさんのご協力や日々の積み重ねから、海事記念館や郷土館、太田屯田開拓記念館にはたくさんの資料が集まってきます。

今回の寄贈資料展は6月10日(土)から7月2日(日)にかけて開催しました。おもにここ

数年間にわたって収蔵され



【寄贈資料展展示風景】

かなが見ることのできない資料もありました。見学に訪れた方々も懐かしそうに見たり、また初めて見るものもあつたりと、興味深げにながめていました。



【展示資料「潜水具一式」】



【子供達に解説する針生勤氏】

(1966)にも調査が実施され、こちらは7回の曳き網で緋鮎5匹、鮎869匹、緋鮎の出現率は0.57%というものでした。

これらの調査などによって、昭和47年(1972)4月、北海道の天然記念物に指定されました。指定後も、山代昭三北海道大学教授や釧路市立郷土博物館(現釧路市立博物館)等の協力を得ながら、調査が行われてきました。

この床潭沼の緋鮎生息調査も今回で20回を数えます。今回の調査では、6地点で曳き網を実施しま

した。最初に実施した地点では、近隣の床潭小学校の児童たちを招いての引き網体験と釧路市立博物館の針生勤学芸員による床潭沼に生息している魚類のお話をさせていただきました。また、引き続き、網にかかった魚の体長と体重の計測方法を実際に見学しました。計測し終わっ



【曳き網風景】

た魚は児童たちの手によって、再び床潭沼へと放たれました。児童たちにとって床潭沼という身近な自然を見つめ直すよいきっかけになればと思います。

なお、今回の調査では、川崎勝廣氏をはじめ、厚岸町文化財専門委員会、厚岸ふるさと友の会、厚岸町教育委員会など多くの方々の御協力を得ました。記して感謝申し上げます。

6月15日、町内の床潭沼で緋鮎<sup>ひぶな</sup>の生息調査を行いました。

床潭沼の緋鮎は、昭和40年(1965)に犬飼哲夫北海道大学教授によって初めて緋鮎生息確認調査がなされました。ちなみにこの時は、7回の曳き網が実施され、緋鮎10匹、鮎839匹が捕獲されました。この時の捕獲した鮎全体に占める緋鮎の割合(出現率)は1.11%でした。また、翌年

(1966)にも調査が実施され、こちらは7回の曳



【鮎の計測風景】

た魚は児童たちの手によって、再び床潭沼へと放たれました。児童たちにとって床潭沼という身近な自然を見つめ直すよいきっかけになればと思います。

なお、今回の調査では、フナ(118)、コイ(4)、ワカサギ(308)、ウグイ(3)、スジエビ(35)、ジュズカケハゼ(3)、イトヨ(1)、アメマス(1)、ドイツゴイ(1)、ウキゴリ(1)が捕獲されました(括弧内は捕獲数)。残念ながら、緋鮎を確認す

## 【お知らせ】 「海の写真展」開催中 !!

海事記念館では、海に対する理解を深め、海に親しんでもらうための特別展として「海の写真展」を7月8日から7月30日にかけて開催しています。映像集団「光風」の協力のほか、町民の方々がお持ちになっている海に関する厚岸の懐かしい写真や水産業の写真などを展示しております。この機会にぜひ懐かしい厚岸の風景をご覧ください。

志賀英一氏提供「オゴリ漁」



## 文化財係 浅利氏、史跡国泰寺跡の樹木を診断



【老桜樹を診断する浅利政俊氏】

5月の下旬、「あっけし桜・牡蠣まつり」開催に伴い、道内桜研究の第一人者である浅利政俊氏が来町しました。その際、町の天然記念物に指定されている史跡国泰寺跡の老桜樹や色古丹松を診断してもらう機会を得ました。診断の結果についてですが、結果から言いますと元気に成長しているそうです。老桜樹では、枝を切り落とした箇所が肉が盛り上がってきており、丈夫な根が地表面に露出していることなどからもそのことが伺えるとのことでした。

色古丹松についても大変大きく成長していて立派であり、特に「<sup>ちからえだ</sup>力枝」が注目されるとのことでした。「力枝」とは、木の一番下に伸びた枝のことです。町の天然記念物に指定されている色古丹松の「力枝」は真横に11mも伸びています。このように大きく伸びることはそれだけこの木が力を持っているということのあらわれでもあるそうです。ぜひ一度、色古丹松の「力枝」、どれだけ大きいかご覧になってみてください。



【色古丹松の「力枝」( 囲み部分)】

## 文化財係 アッケシソウ栽培記

私たちの住む町には、「アッケシ」という町名のついた植物、アッケシソウが生育しています。残念ながら現在厚岸町内で自生しているアッケシソウは厚岸湖の北岸から東岸に限られています。そのため、なかなか一般の人の目に触れることは困難です。そこで、今年から町内港町において新たにアッケシソウ栽培地を造りました。まだ試行錯誤のため、これからどのようにアッケシソウが育っていくかわかりませんが、秋口に赤く色付くことを願って育てています。現在(6月下旬)は青々と育ち、高さも10cm前後にまで伸びました。自由に見学もできますので、興味のある方やどのように育てているかご覧になりたい方は、現地を訪れてみてはいかがでしょうか。



## 文化財係 あっけし桜・牡蠣まつりで「厚岸かぐら」披露



今年も桜の季節を迎え、厚岸町では「あっけし桜・牡蠣まつり」(会場:町内子野日公園)が開催されました。この期間内の5月28日(日)には厚岸町の無形文化財に指定されている「厚岸かぐら」が厚岸かぐら同好会の方々によって披露されました。当日は、五つの演目(助六舞、三本とうじ、恵比寿舞、獅子舞、餅搗き舞)が演じられました。餅搗き舞では、実際に舞で搗いた搗きたての餅が見学者に振る舞われました。このような活動を通しながら、現在厚岸かぐらを後世に伝えようと厚岸かぐら同好会のみなさんが日々練習に励んでいます。

### 編集後記

寄贈資料展の記事の中でも少し触れたのですが、今回の資料展では明治45年と明記された木箱を展示しました。この中にはお椀が納められており地域共同で使用していたものだと思います。共同で使用する人以外の方が使用する場合には、1日50銭を支払うようにとのただし

「厚岸町海事記念館通信」第2号 2006.7.発行  
【編集・発行】  
厚岸町海事記念館  
〒088-1128 北海道厚岸郡厚岸町字港町50番地1  
Tel/Fax (0153)52-4040

書きも墨書されています。明治時代当時の地域のつながり、まとまりを垣間見た気がしました。(文責:車塚)